



Murata Report 2014

Corporate Report
CSR Report



このパンフレットは
環境に配慮し、植物
油インキを使用して
います。



Innovator in Electronics®

ムラタが作っている電子部品のことを、
多くの人は知りません。けれども、ほとんどの人は
ムラタの電子部品を使っています。
パソコン、スマートフォン、家電製品、カーエレクトロニクス…。
より小さく、より高性能に、
日々めざましく進化を続ける電子機器のなかで、
ムラタの電子部品は活躍しています。

Innovator in Electronics®

電子部品は、変わり続けています。
ムラタもまた、変わり続けたいと思います。
時代の動きを受け止め、
まっすぐにお客様を見つめ、
現場でのモノづくりに誇りを持ち、
たえず新しい課題にチャレンジする、
エネルギーに満ちた
改革者(Innovator)であり続けたいと思います。
変わらない信念を持って、大胆に変わっていく。
ムラタはどんな時代にも
イノベーターであり続けます。



Index

Corporate Report	01	Innovator in Electronics®
	02	Index
	03	Message from the President
	05	Murata's Technology
	07	Integrated Production System
	09	アプリケーション別製品紹介
CSR Report	13	財務ハイライト
	15	グローバルネットワーク
	17	CSRコミットメント
	19	事業とCSR
	21	環境特集
	23	環境保全推進
	25	従業員への責任と行動
27	社会・地域への責任と行動	
Profile	29	CSR活動における目標と実績
	31	第三者からのご意見
	32	国内外拠点一覧
	33	役員一覧 株式の状況 大株主の状況

※本誌では村田製作所グループ全体をムラタと表記しています。

Murata's Philosophy

ありたい姿の実現に向け
グローバルで想いを共有する。



エレクトロニクスの可能性を追求して70年。

今年10月、ムラタは創業70周年を迎えます。1944年に京都で創業以来、ファインセラミクスを探索し、いろいろな技術や製品を創出してきました。この70年、お客様をはじめ、さまざまなステークホルダーのみなさまに支えられ、いまでは世界23カ国101社に事業を展開するにいたっています。ともに歩み、ご支援いただいたみなさまに心からお礼申し上げます。

新興市場へ、新規アプリケーションへ。

ムラタは「コーポレートブランドデザイン」にムラタのありたい姿をまとめています。その実現のための戦略となる「中期構想」として、モバイル通信、自動車など、ムラタが得意としてきた市場へのさらなる価値提供に加え、新興市場、新規アプリケーションへの取り組みを一層加速させています。新興国のローカルメーカーとより強固な関係を構築し、いち早くニーズをつかみ、世界経済をけん引する新興市場において新しい価値を提供します。また、従来から注力している自動車市場はもとより、環境・エネルギー、ヘルスケア市場のアプリケーションにも、新たにムラタの技術、商品投入する意気込みです。

想いを新たに、Innovator in Electronics®

ムラタでは、判断や行動の軸になる「経営理念」(=「社是」)を、世界に点在するムラタメンバー全員で共有するための取り組みを強化しています。この4月には経営理念を表現するVisual Identity (VI) をリニューアルし、グローバルのムラタメンバー全員で経営理念やスローガン「Innovator in Electronics®」への想いをしっかり見つめ直しています。スピーディに時代の変化に対応し、お客様のニーズにお応えしていくために、全員が同じ想い、目的を共有し、緊密に連携していきます。これからもムラタは将来を先取りした製品開発と高付加価値商品を創出することで、文化の発展に貢献してまいります。

社是

技術を練磨し
科学的管理を実践し
独自の製品を供給して
文化の発展に貢献し
信用の蓄積につとめ
会社の発展と
協力者の共栄をはかり
これをよるこび
感謝する人びと
ともに運営する

代表取締役社長 村田恒夫

Murata's Technology

絶え間ない進化… 顧客価値を創出する技術

材料から製品までの一貫生産体制を構築しているムラタでは、材料開発、プロセス開発、商品設計、生産技術、そして、それらをサポートするソフトウェアや分析・評価などの技術基盤を独自に開発、蓄積しています。これらの技術は相互に関連し、それぞれの分野の技術者が緊密に連携することにより、お客様のご要望に迅速に対応できる柔軟性を実現しています。また、外部とも積極的に協業し、将来を見越した技術や製品の開発により、新たな市場やイノベーションの創出を目指しています。

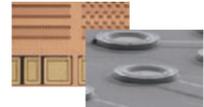
プロセス開発

設計された機能を具体的に発現させるために最良のつくり方を設計するのがプロセス開発です。電子部品の小型化、薄型化、高機能化において、プロセス開発は重要な役割を果たしています。たとえば、世界最小サイズ(0.25mm×0.125mm)を開発した積層セラミックコンデンサは、これまでにムラタが蓄積してきたミクロン単位でセラミックシートを薄層・多層化する技術により実現しています。また、弾性表面波デバイス、MEMS応用センサには、薄膜・微細加工技術が活用されています。

<コア技術紹介>



シート成形・積層技術



薄膜・微細加工技術

- セラミックシート薄層・多層化技術
均一かつ微細な結晶粒子の薄い誘電体シートを形成し、それを1mm未満の高さに数百枚正確に積み重ねる技術
- 印刷技術
セラミックシートに薄層・緻密内部電極や高密度配線回路を形成する技術
- 薄膜・微細加工技術
ミクロン・ナノレベルでの平坦で滑らかな皮膜を形成し、ナノレベルの精度での加工を実現する技術。ムラタでは、さらに進化させた3次元微細加工技術もMEMS応用デバイスに活用しています。

生産技術

ムラタでは最適なモノづくりを目指して生産設備を自社で手がけています。これにより、製品を効率的、安定的に量産するための技術やノウハウを多く保有しています。製品の開発段階から設備開発を行うことが、安定した品質をつくりだすことにつながっています。ムラタのモノづくりの根幹を支えているのが、生産技術です。

<コア技術紹介>



自動機設計技術

- 自動機設計技術
小型、薄型、高機能化に最適な加工、組み立てを、高精度かつ高速に実現する製造設備を設計する技術
- IE[®]
モノづくりの現場を科学的に分析・管理することで生産性を高める技術
※IE: Industrial Engineering

プロセス開発

材料開発

分析・評価

商品設計

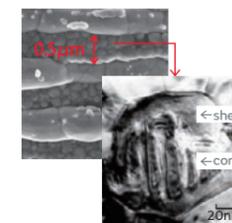
ソフトウェア

生産技術

材料開発

「新しい電子機器は新しい電子部品から、新しい電子部品は新しい材料から…」ムラタではこの考えをベースに求められる機能を常に材料にまで立ち返って、源流での管理、源流からの開発姿勢を貫くことで、優れた特性を持った機能性セラミック材料の創出を実現してきました。セラミック材料で培われた技術は、新しい機能を生み出す材料の開発に展開されています。

<コア技術紹介>



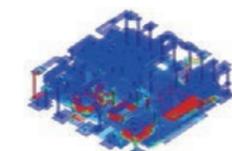
セラミック粒子のコアシェル構造

- 材料設計技術
材料に要求される特性・機能を実現するための材料組成・構造を設計する技術
- 粉体技術
セラミックスの粒径や結晶構造を制御した粉体を合成・製造する技術

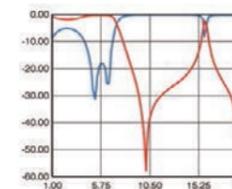
商品設計

単機能部品からモジュールへ、さらにはトータルソリューション提案へと、ムラタの提供価値は進化しています。お客様のご要望に迅速に対応し、未来を見据えた技術、商品の開発に取り組んでいます。また、ムラタで早くから蓄積されてきた高周波設計技術は、スピーディな商品設計を実現し、急速に進化するスマートフォンやタブレットなど、モバイル機器のイノベーションを支えています。

<コア技術紹介>



電磁波解析



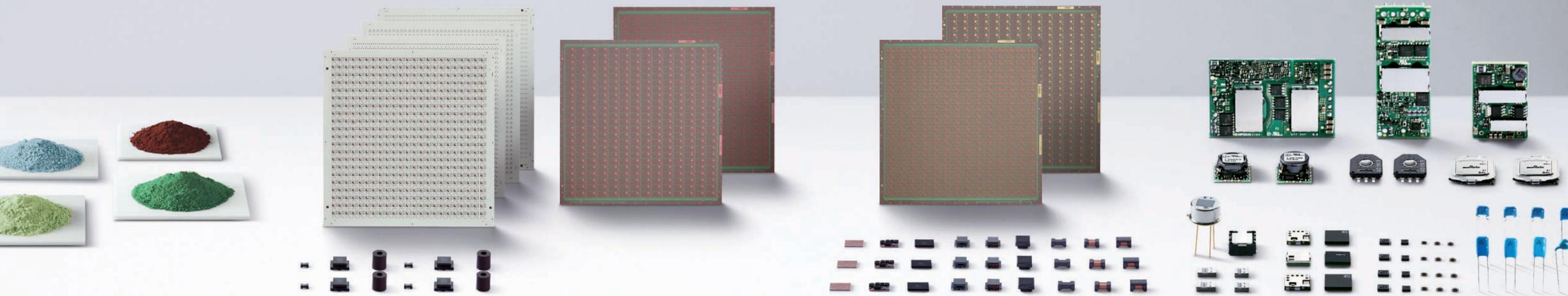
高周波デバイスの通過反射特性

- 高周波設計技術
低周波帯では影響の少なかった寄生成分や回路・素子間の複雑な電磁的結合を考慮した設計技術。高い周波数帯で使用される部品の設計では、これらの影響を考慮した設計により高周波対応製品の小型・高機能化を実現しています。
- シミュレーション技術
構想設計を具現化するための仮想設計や解析を行う技術。回路シミュレーション技術、電磁界解析技術、熱解析技術、応力解析技術は開発スピードの効率化を実現し、技術課題の解決に広く活用しています。
- モジュール設計技術
個々の部品の性能を最大限に引き出して必要な機能を実現する回路構成を提案し、要求サイズのモジュール構造を具現化する設計技術。より高速で大容量の通信サービスが望まれるなか、小型・低背で高機能な無線通信モジュールを提案しています。
- センサ素子設計技術
機能材料や構造を用いて、物理特性、時空間特性などの状態・変化を計測できる素子を具現化する設計技術。小型・高感度化が進むにつれあらゆる機器に多くのセンサ素子が組み込まれ、センサ素子によって得られた情報はさまざまな場面で活用されています。

Integrated Production System

すべての技術がまっすぐに市場を、お客様を志向しています。

ムラタの技術体系は、材料から製品まで、緊密に連携し統合されています。すべての技術部門がまっすぐにお客様を見つめ、新しい価値を提供しようとする、そのベクトルの一致が、ムラタの力です。



[ムラタのモノづくり]

材料



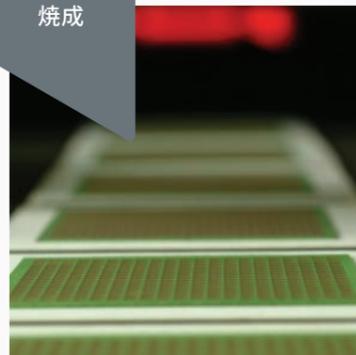
電子部品の特性に決定的な影響を与えるセラミック材料や電極材料を、高い精度で制御する技術を確立しています。

シート成形



厚さ $1\mu\text{m}$ 以下のセラミックシートから、射出成形による複雑な形状まで。“機能のための形”を追求しています。

焼成



セラミックスは、焼き固められることで結晶構造が変化し、性能を発揮します。炉のなかの見えない挙動を制御する技術です。

加工と仕上げ



焼成までの工程を経て電気的な性能を獲得したセラミックスは、次にさまざまな加工を施されて、「電子部品」として完成されていきます。

検査と梱包



完成した製品は、厳しい検査を受け、その性能を保証されたものだけが、ムラタ製品としてお客様に届けられます。

Communications

[通信]

指先でつながる、 世界と、未来と、安心と。

— そこには、もっとつながりたいムラタがいます —

世界中の人々が手に取る携帯電話やスマートフォン。より高速で大容量な通信サービスも登場し、多機能な機種需要が拡大しています。高周波部品の小型化やモジュール化、機能や操作性を向上させるセンサや機能モジュールなどで、進化と普及に貢献します。



積層セラミックコンデンサ

電気を蓄えたり電気の流れを整える働きをし、電子回路には欠かせない部品です。スマートフォンをはじめとするモバイル機器、PCの小型・薄型化・高機能化にともない搭載数が増加しています。



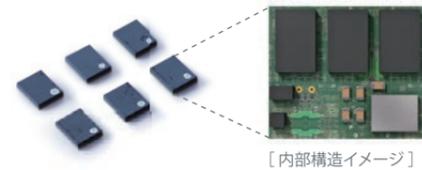
高周波インダクタ(コイル)

電気を流すと磁界と作用し合っって電流に影響を与える部品でコイルとも呼ばれています。無線回路や電源回路などで使用されています。



高周波モジュール

スマートフォンの複数周波数対応をサポート。周波数切り替え、フィルタリングの従来機能に、信号増幅(PA)機能を一体化。さらなる機能付加で、スマートフォンの薄型化、通信速度の高速化に貢献します。



表面波フィルタ

無線信号のなかから必要な信号だけを取り出すフィルタは高周波回路のキーデバイス。ムラタは独自の小型化技術で、回路設計の自由度向上に貢献しています。



コネクティビティモジュール

無線通信によってモバイル機器からインターネットにアクセスするための複合部品です。スマートフォンの多機能化の流れをリードしています。



低ESL積層セラミックコンデンサ

MPUに供給する電力を安定化させる小型大容量コンデンサで、モバイルPCの小型、薄型化に貢献します。



ショックセンサ

圧電セラミックスを応用して、加速度や振動を電気信号に変換する電子部品です。主にHDDで、外部からの衝撃による書き込みを防止するためのセンサとして使用されています。



チップEMI除去フィルタ(エミフィル®)

電子機器から発生するノイズを除去するための部品で、電子機器の誤動作防止に役立っています。電子機器の小型化・多機能化・高周波化にともない複雑化する電磁波ノイズの対策や改善に貢献しています。



Computers

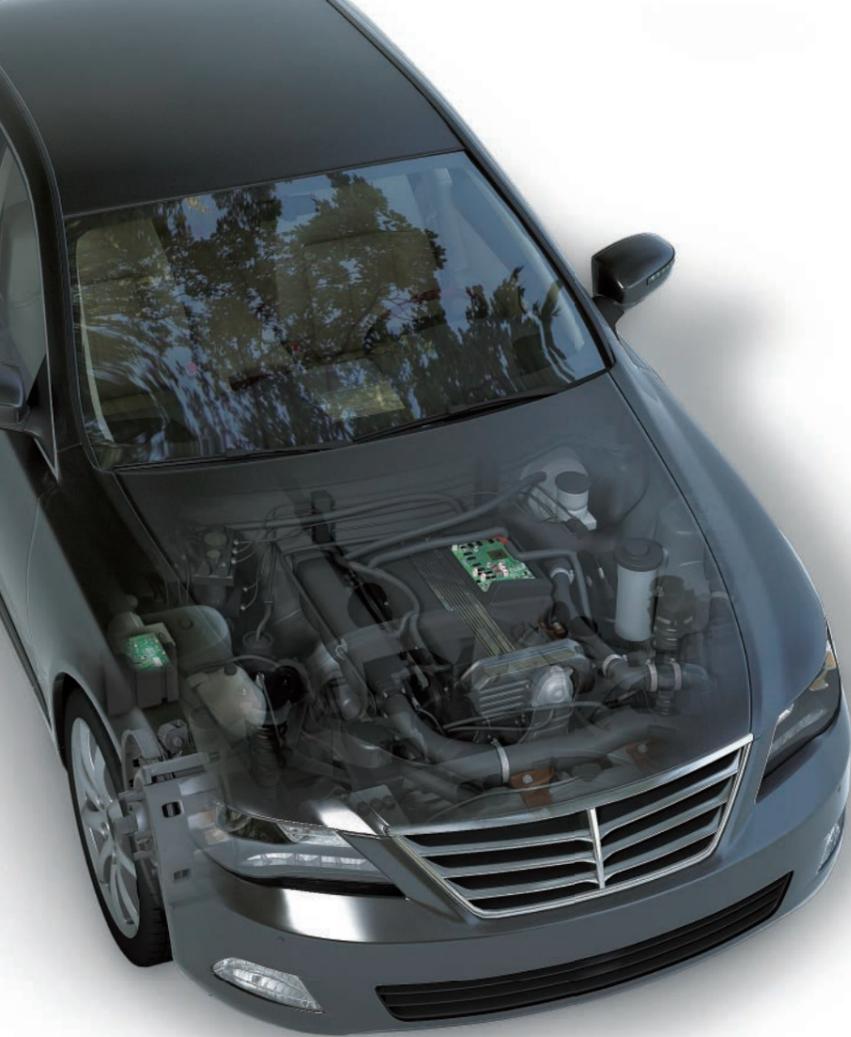
[コンピュータ]

いつでも、どこでも、 コンピューティング。

— 「簡単」を実現する、簡単じゃない技術をムラタから —

高速無線通信やクラウドサービスの普及で、簡単に持ち運べて簡単につながる、モビリティの高いPCやタブレット端末が注目を集めています。電子部品の小型化技術、高密度実装技術、センシング技術などでPCの高性能化、高機能化に対応。低消費電力のコネクティビティを提供する無線通信モジュール、快適な操作性を実現するセンサなど、新時代のコンピューティングをサポートしています。

※各ページの世界シェアは業界全体での世界シェアであり、アプリケーション別の世界シェアではありません。また世界シェアは当社推定値です。市場や用途により異なります。



MEMS加速度・ジャイロ一体型センサ

加速度変化や重力変化を静電容量変化としてとらえ、加速度値や傾斜角度を検出することができます。車体の横滑り防止装置(ESC)やアンチロック・ブレーキシステム(ABS)など、クルマの基本性能にかかわる部分に使用されています。



超音波センサ

圧電セラミックスを振動させることで発生する超音波の反射時間で距離が測定できるセンサです。駐車支援システムのバックソナーに使用されています。



DC-DCコンバータ

ムラタ独自のシートトランスを用いた薄型・軽量のDC-DCコンバータです。このDC-DCコンバータ1つで、絶縁が必要な各ブロック(低圧バッテリー入力回路部・高圧バッテリー入力回路部・AC商用電圧入力回路部)の制御回路部への電圧供給が可能になります。



積層セラミックコンデンサ

セラミックの耐熱特性を生かした当社の高信頼性コンデンサは過酷な使用環境下でも性能を発揮できます。ECU、駆動制御、セーフティ機器などに使用されています。



世界シェア
35%

タイミングデバイス

ICと組み合わせてクロック信号をつくりだす部品です。自動車の電装化が進むと、ECU同士の通信が必要となり、そこには高精度、高品質なクロック信号をつくりだすタイミングデバイスが求められます。

水晶振動子 HCR[®]



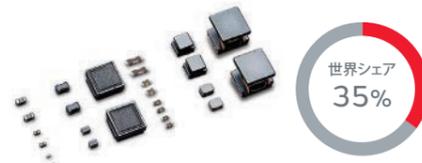
セラミック発振子セラロック[®]



世界シェア
70%

チップEMI除去フィルタ(エミフィル[®])

AV機器/家電のデジタル化が進んでおり、機器内部を流れている高速なクロック信号が時に電磁ノイズとして機器に悪影響を与えることがあります。ノイズによる誤動作などを防止し、同時にAV機器の高画質・高音質に貢献しています。



世界シェア
35%

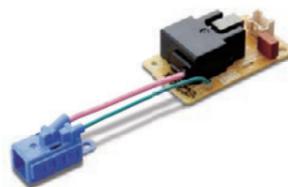
サーミスタ

電圧・電流の変化により抵抗が変化する回路の過熱や充電を監視する部品です。IC、電源回路、バッテリーなどのなかで過熱や過大電流から回路を保護することに役立っています。



イオナイザ(イオニシモ[®])

空気分子をイオン化(プラスやマイナス電荷を付与)するデバイスです。空気をイオン化し機能性を持たせることで、消臭、除菌、防カビ、抗ウィルス、除電、帯電などの効果が得られます。



導電性高分子アルミ電解コンデンサ

低背/低ESRを特徴とした大容量コンデンサです。シビアな電圧制御が要求される回路の電圧安定化を担い、AV機器の高機能化に貢献します。



Audio and Visual / Home Appliances

[AV/家電]

家のなかには、家族とムラタがいます。

— 賢くて、経済的なのが、おしゃれです —

テレビが、私の好きな番組を覚えていてくれる。エアコンが、人のいるところだけ涼しくしてくれたり、空気にマイナスイオンを与えてくれる。センサやイオナイザモジュール、変換効率の高い電源モジュールが、新しいスマートでエコな暮らしをサポートしています。



※各ページの世界シェアは業界全体での世界シェアであり、アプリケーション別の世界シェアではありません。また世界シェアは当社推定値です。市場や用途により異なります。

Automotive Electronics

[カーエレクトロニクス]

地球にとって、人にとって、車の技術はこれからももっと。

— だから、ムラタには、まだまだやることがいっぱい —

より安全に快適に移動できる乗り物であること、環境問題に対応していること、ドライブを楽しむエンターテインメントを持ち合わせるなど次世代に向けて自動車のインテリジェント化・電動化が進んでいます。ムラタの電子部品は、安全装備、パワートレイン、情報通信など、あらゆる角度から、車載電子機器や各種モジュールの小型・高性能化、高信頼性を実現すべく、車とともに進化しています。

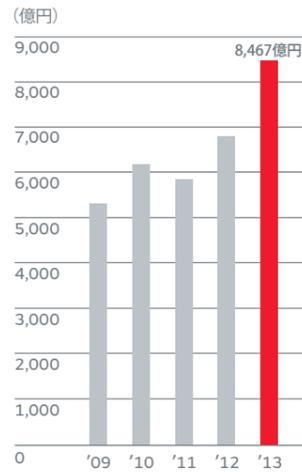
Financial Highlights

キーワードは「つながる」。

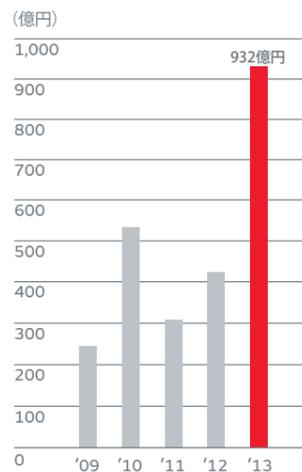
スマートフォンやタブレット端末の普及、自動車の電装化…。ムラタの電子部品は、社会の発展に貢献する分野で、ますます成長しています。

現在、世界中で販売されている携帯電話の半分ほどを占めるスマートフォン。3年後には、これが75%以上に伸びると予測されています。カーエレクトロニクスの分野では、ハイブリッドカーや電気自動車が増えるとともに横滑り防止装置をはじめとする安全機能の向上で電装化が進んでいます。電子部品に対する需要は、さらに小型、高性能、高信頼性へ…。ムラタでは、創業以来の主力製品である積層セラミックコンデンサに加え、通信モジュールや圧電製品をさらに大きく伸ばしています。

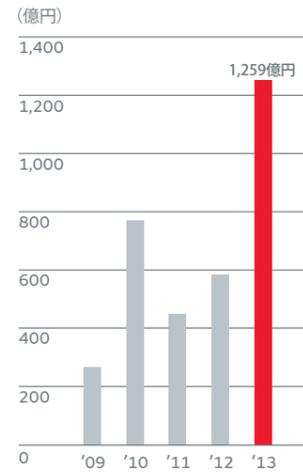
売上高



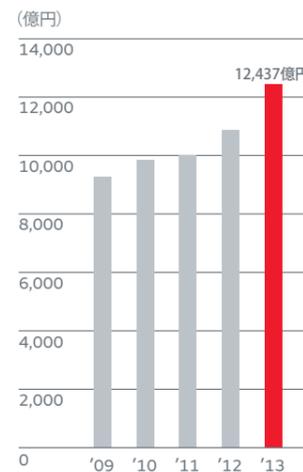
当期純利益



営業利益



総資産



製品別売上

“つながる”社会を支えるモジュールや小型高性能なコンポーネント部品が大きく成長しています。

〔コンデンサ〕

スマートフォン、タブレット端末向けに超小型品や小型大容量品のハイエンドなコンデンサが、カーエレクトロニクス向けにはハイブリッドカーや電気自動車の普及による電装化の進展で高信頼性のコンデンサが増えています。

〔圧電製品〕

携帯電話のマルチバンド化にともない表面波フィルタが伸び、圧電センサは、ハードディスクドライブ向けにショックセンサが好調。水晶デバイスは、家電用やカーエレクトロニクス用が需要を押し上げています。

〔その他コンポーネント〕

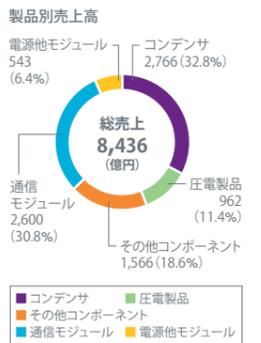
高周波コイルやコネクタがスマートフォンやタブレット端末向けに増加。EMI除去フィルタは、カーエレクトロニクス向けやスマートフォン向けで好調。横滑り防止装置(ESC)に使われるMEMSセンサは、カーエレクトロニクス向けで伸びています。

〔通信モジュール〕

スマートフォンやタブレット端末の高機能化、多機能化、通信速度の高速化で高周波モジュールやコネクティビティモジュールが大幅に増加しています。

〔電源他モジュール〕

サーバーやカーエレクトロニクス向けで増加しています。



用途別売上

通信やカーエレクトロニクスなどに向けて、便利、快適、安心を生み出す幅広い製品群が好調です。

〔通信〕

スマートフォン向けに、高周波モジュールやコネクティビティモジュールといったモジュール部品、超小型・小型大容量のハイエンドなコンデンサや表面波フィルタ、高周波チップコイル、コネクタといったコンポーネント部品など、幅広い製品で需要が拡大しています。

〔コンピュータおよび関連機器〕

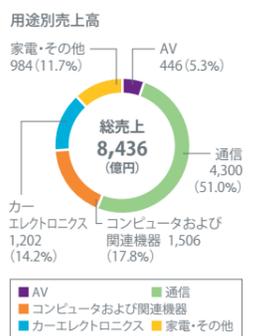
タブレット端末の普及拡大により、通信モジュールやコンデンサなどスマートフォン同様に幅広い製品で需要が拡大しています。

〔カーエレクトロニクス〕

自動車の電装化の進展で、高信頼性の自動車用コンデンサや、横滑り防止装置用のMEMSセンサが増えており、自動車向けの電子部品の需要は販売台数の伸び率以上の成長が見込まれています。

〔AV、家電・その他〕

携帯メディアプレーヤーの需要縮小により、コネクティビティモジュールが減少しています。



新規アプリケーション

自動車、エネルギー、ヘルスケア市場…。新しいアプリケーションに、新しい価値を提案していきます。

ムラタがいま、注力しようとしているのは、①ハイブリッドカーや電気自動車の普及で電子部品の需要が急拡大する自動車市場、②再生可能エネルギーの拡大や省エネ技術を駆使したスマートコミュニティの構築が見込まれるエネルギー分野、③健康を意識する世代の増加、医療技術のIT化や電子化で成長が見込まれるヘル

スケア市場の3分野です。これらは変化が求められている市場です。ムラタは、これまで培ってきたエレクトロニクスの技術(小型化・薄型化の実現、センサ、無線通信のコア技術)やノウハウを生かして新しい価値を提供することで変化を起し、新しい社会、より良い社会の実現に向けて、これまでも増して貢献し続けていきます。

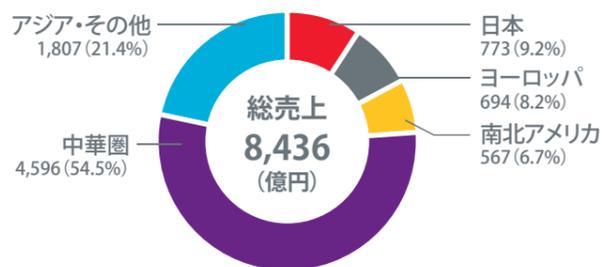
Global Network

Global Network

さまざまな地域で、101社。
世界のそれぞれの場所で、ムラタらしく、新しく。

ムラタ製品の90%以上は海外で販売されています。
日本、アジア、南北アメリカ、ヨーロッパ。
それぞれの拠点が、同じ方針のもとにお客様志向を貫くだけでなく、それぞれの地域の企業市民として愛され、信頼される存在であるように。そしてまた、それぞれの拠点が同じムラタの仲間としてひとつの目的に向かって進んでいけるように。世界のムラタが、足並みをそろえています。

■ 地域別売上高



※地域別売上高、従業員数、関係会社数は2014年3月31日のものです。
※地域別売上高は、電子部品およびその関連製品の売上高です。

The Americas

売上高 567億円
従業員数 676人
関係会社 14社



Murata Americas
Director
Human Resources
Suzanne Oesau

*Building Organizational Capability
Through People*

ムラタはグローバル市場のニーズに一丸となってお応えします。常に変化していくお客様のニーズにお応えし、イノベーションを生み出していくためには、多様な才能のネットワークを戦略的に構築していかなければなりません。ムラタアメリカスでは人材開発にも注力しています。グローバルで最適な人材を配置し、ムラタのミッション、ビジョン、理念をグローバル一丸となって実践していきます。



Europe

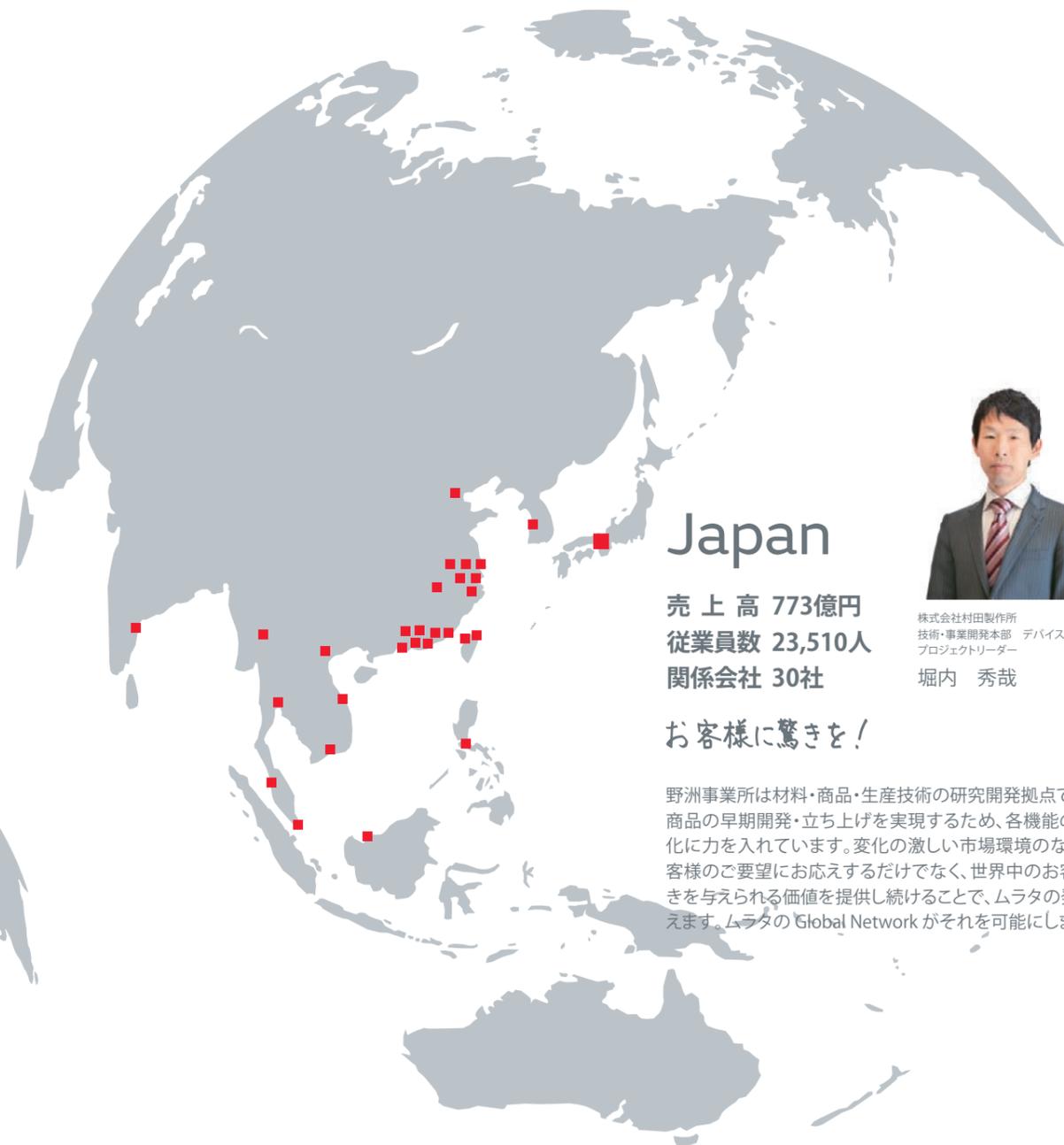
売上高 694億円
従業員数 1,187人
関係会社 13社



Murata Europe
General Sales Manager
Business Unit Distribution
David Whiteley

Together we will be strong

昨今、ビジネスチャネルは非常に複雑になっており、代理店とのパートナーシップが成功への重要な鍵といえます。ムラタは代理店とともに新たな航海に出ます。新しい技術を開拓し、新しい地域や市場に向かいます。私たちは最前線で、新しい大航海時代の探検家として全力を注いでまいります。



Japan

売上高 773億円
従業員数 23,510人
関係会社 30社



株式会社村田製作所
技術・事業開発本部 デバイス開発センター
プロジェクトリーダー
堀内 秀哉

お客様に驚きを!

野洲事業所は材料・商品・生産技術の研究開発拠点であり、新商品の早期開発・立ち上げを実現するため、各機能の連携強化に力を入れています。変化の激しい市場環境のなかで、お客様のご要望にお応えするだけでなく、世界中のお客様に驚きを与えられる価値を提供し続けることで、ムラタの発展を支えます。ムラタのGlobal Networkがそれを可能にします。

Greater China

売上高 4,596億円
従業員数 11,056人
関係会社 27社



Taiwan Murata Electronics Co., Ltd.
General Manager
Planning & Marketing Dept.
Jack Wu

Sensing, Challenge and positive thinking

ビジネス環境は急速に変化し、ナンバーワンの地位もすぐ変わります。市場を獲得し、新しい製品や技術を創出することは成長するために欠かせないミッションです。新しい技術、アプリケーション情報を共有するだけでなく、新しいビジネスを創造していこう。全員マーケティングで!

Asia and Others

売上高 1,807億円
従業員数 11,859人
関係会社 17社



Murata Electronics (Thailand), Ltd.
Deputy General Manager
Sensor Production Dept.
Chawala Boonsophonkarn

Being "New Value Creator" to strengthen Murata Globalization

新しい価値を創出するためには、お客様視点のまったく新しい発想が欠かせません。私たち生産拠点から、商品部、営業、お客様としっかり連携し、「現場」の力を強化しています。そして国境を越え、さまざまなアイデアや取り組みを共有し、ムラタのグローバル化を実現します。

CSR Report 2014

地球とともに、社会とともに、人とともに

Innovator in Electronics®

ムラタが創業期から会社の理念として掲げる社是の一節に「独自の製品を供給して文化の発展に貢献」があります。私たちの製品を通じて、生活をより豊かに、より質の高いものにすることに貢献していきたいという強い想いです。たとえば、普及がめざましいスマートフォンやタブレットPCは社会インフラといえるものになってきましたが、当社の商品群もスマートフォンやタブレットPCのなかで小型化、高性能化に寄与しています。また、現在注目を集めるウェアラブル端末は将来社会を大きく変革する力も持つ可能性を秘めています。エレクトロニクスが活躍するフィールドはこれからも大きく広がり、自動車分野ではより安全に・より環境にやさしく、エネルギー分野では限られた資源や環境問題の解決に貢献し、ヘルスケア・医療分野では人々の健康と生活の質的向上を支えています。このような事業を通じた社会への貢献に加えて、持続可能な社会を実現するためには、環境問題、人権問題など、解決すべき課題が世界にはまだ多くあります。たとえば、エレクトロニクス業界では紛争地域の鉱物資源問題の解決に向けて早くからかわかってきましたし、ムラタはこの問題にサプライチェーンとも協同し、真摯に取り組んでまいりました。また、当社はグローバルに事業を展開するにあたり、グローバ

ル人材の育成にも力を入れています。多様なバックグラウンドや価値観を尊重し、国内外の拠点で人材交流を行うとともに経営理念や目指す方向性をグローバルに共有し、社会に対して最良の価値を提供するための、グローバル企業の実現に向けたさまざまな取り組みを行っています。たとえば、ムラタの社是には、「会社の発展と協力者の共栄をはかり、これをよこび感謝する人びとともに運営する」という一節があります。ムラタは事業展開する国内外それぞれのどの国や地域にあっても、「そこにムラタがあることがその地域の誇りでありたい」との想いを持って事業運営を行っています。いま、当社はCSR経営を推進するにあたって経営理念を基軸とする「CSR憲章」のもと、CSR統括委員会を設けています。ムラタはこれからも「地域や社会に開かれた存在であり、信頼し尊敬される企業であり続けること」「お客様にムラタといっしょにビジネスをすることについて安心感を持ってもらうこと」を目指して、CSR統括委員会と、その傘下の各関連委員会の活動を通じ、社会の持続的発展に向けたCSR経営を継続的かつ計画的に推進してまいります。

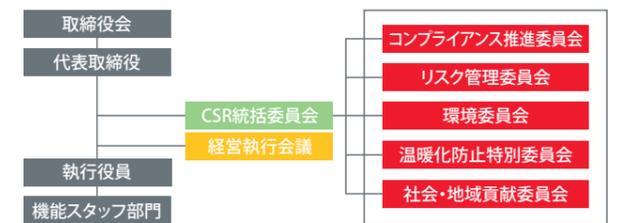
代表取締役社長 CSR統括委員会 委員長 **村田 恒夫**

CSR憲章（概要）

ムラタでは、ムラタの経営理念をふまえて、法令の遵守はもとより、高い企業倫理観にもとづき、透明性の高いガバナンス、人権尊重、安全衛生、社会貢献、環境保全などに取り組むことにより、社会から信頼される企業であり続けることを目的として、当社に働くすべてのものが遵守すべき規範として「CSR憲章」を定めます。

- 企業統治** | 私たちは地域や社会に開かれた存在であり、信頼され尊敬される企業であり続けるために、説明責任を果たし、経営の透明性を高めていきます。
- 人権と労働** | 私たちは一人ひとりの人権を尊重し、尊厳をもって対応します。
- 安全衛生** | 私たちは安全で快適な職場環境を確保し、従業員の健康管理をおこなうことで、製品・サービスの質と従業員のモラル向上をはかります。
- 環境保全** | 私たちは企業活動の過程で生じる社会、環境、天然資源への悪影響を抑え、健康で安心して暮らせる社会の実現をめざします。
- 公正取引・倫理** | 私たちは社会的責任を果たし、社会から信頼される存在であるために倫理の最高の水準をめざします。
- 管理の仕組み** | 私たちはこのCSR憲章を遵守するための管理の仕組みを構築し、継続的な改善をはかります。

CSR関連委員会組織図



【CSR憲章と、CSRIに関連する方針類】

- CSR憲章 / ■ 企業倫理規範・行動指針 / ■ 人権・労働に関する基本方針 /
- 労働安全衛生方針 / ■ 環境方針 / ■ 購買方針 / ■ 品質基本方針 /
- ディスクロージャーポリシー / ■ 社会・地域貢献活動基本方針

【報告対象範囲と情報開示体系】

本レポートでは、ムラタのCSRとその取り組みを把握していただきやすくするため、要点を絞って報告・編集しています。詳細な情報や事例、各事業所別の環境データなどは、株式会社村田製作所のホームページに掲載しています。なお、財務情報についての詳細は「投資家情報」をご覧ください。

【報告対象期間】

2013年4月1日～2014年3月31日
 ※一部、2013年3月以前、2014年4月以降の取り組みについても報告しています。

【報告対象組織】

村田製作所グループ（株式会社村田製作所および国内外の関係会社101社）

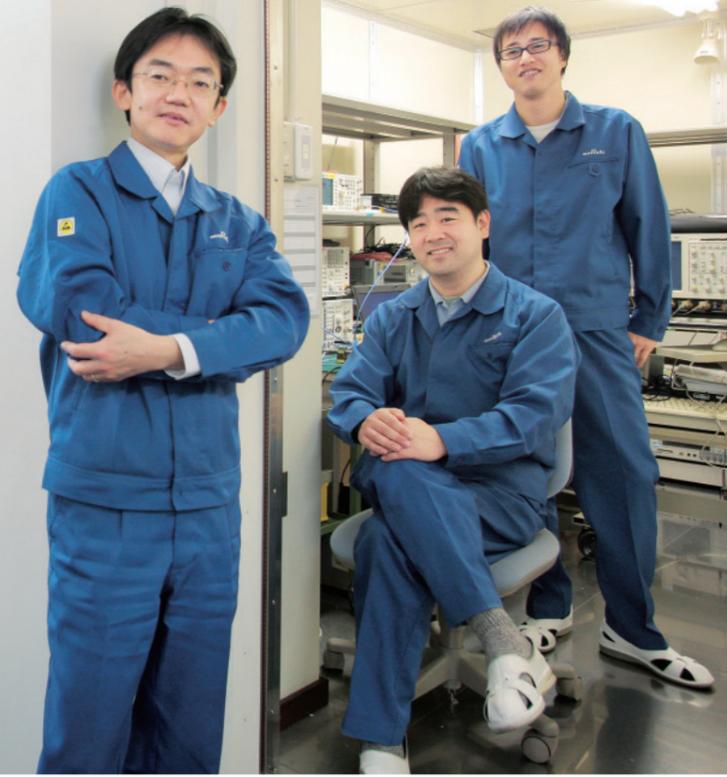
 このマークで示す項目はホームページでさらに詳しい情報を公開しています。

特集：事業とCSR

[Bluetooth® Smart Module]

いつもつながり、ずっと見守る。
通信技術が開く、
社会の新しい安心・安全。

写真前列左より
株式会社村田製作所
通信事業本部
コネクティビティ商品事業部
西村 哲
伊東 祐一
家村 真人



[エネルギーシステム実証実験]
持続可能な社会を
つくるために。
次世代型スマート
ハウスの挑戦。

写真左より
株式会社村田製作所
技術・事業開発本部
デバイス開発センター
藤田 真
渡辺 華緒理
宮本 博之



小指の先にも乗る超小型サイズ。
これだけであらゆるモノが無線
つながります。このなかにムラタの
技術と想いが集約されています。

技術の助けを必要としている人に、
意識せずに、いつでもどこでも、つながる仕組みを。

スマートウォッチ、スマートグラスなど、最近話題のウェアラブル端末は、医療や介護の現場からも注目されています。これらの端末はスマートフォンなどと無線接続されることが前提となっており、その近距離無線通信機能を担うのが、Bluetooth® Smart Moduleです。いつでも身につけていることによって、たとえば体温や血圧、心拍数などの生体情報を24時間モニタすることが可能になります。スマートフォンを通してその情報が病院や介護機関につながり、病気の兆候の早期発見など、タイムリーできめ細かな在宅ケアが実現します。また、歩数計、体組成計などに搭載すれば、フィットネスなど健康の維持・増進や安全管理にも貢献できます。ウェアラブル端末は、無線接続の状態を“意識せずに”常時接続したままの状態です。意識せずに“常時接続したままの状態”で使うことが想定されています。そのような機器に実装され

るためには、通信モジュールも十分に小型でなければなりません。ムラタが提供するBluetooth® Smart Moduleは、5.4mm×4.4mmと超小型。また、超低消費電力で、コイン電池で数年の稼働が可能です。頻繁な電池交換が不要なことも、“意識せずに”使い続ける製品であるためには、重要なポイントです。近距離、長距離の無線通信が、緊密なネットワークをつくり、人々を見守っている社会。そこでは、人は高度なテクノロジーにアクセスしていることを意識せずに、そのメリットを享受することができます。お年寄りや体の不自由な方など、技術の助けを必要としている人にこそ、そのような社会インフラが提供されなければならないと考えています。ムラタのBluetooth® Smart Moduleは、これからの社会インフラのキーデバイスとして、人々の安心・安全に貢献していきます。

電力の地産地消を可能にする
エネルギー管理システムの構築。

東日本大震災以降の日本では、より一層エネルギー問題への関心が高まっています。世界的にも、自然エネルギーの導入を加速させるべくさまざまな試みが行われています。災害に強く自然エネルギーとの相性が良いと言われているのが、地産地消型の分散型電源。2011年6月に設立された「横浜スマートコミュニティ」は、“自然に学び自然を活用しながら、生活や文化を科学技術で支援する街をつくる”という理念のもと、環境に負担をかけない持続可能な地産地消型エネルギー社会を目指しています。ムラタは、コミュニティの一員として、株式会社スマートエナジー研究所、dSPACE Japan株式会社とともに次世代型スマートハウス向けのエネルギーシステムを開発、「スマートセル」と呼ばれる建物に設置して、未来のエネルギー

利用のあり方を模索する実証実験を行っています。スマートセルに設置したシステムは、①電力会社が供給する電力(系統電力)②太陽光発電による電力③蓄電池に蓄えた電力を自由自在にミックスし、電力の「創る」「蓄える」「賢く使う」を実現します。主な特長は、発電が不安定で使いにくい太陽光エネルギーを蓄電池に貯め、夜間に安定して利用できる。誤って一度に多くの電気機器を稼働させても、電源やブレーカーが停止しないよう、余っている電力を足りないところへ瞬時に移動させる技術。災害時の停電でも電力が供給できる自立運転機能などです。ムラタは暮らしの安心・安全と、持続可能な社会の実現に貢献する技術開発に取り組んでいきます。



自然エネルギーを有効利用しつつ、
電力の需給バランスを平準化。
調和の取れた分散型電源ネット
ワークの普及に貢献します。

〔ムラタの環境経営〕

技術や製品・サービスを通じて環境負荷の低減に貢献する。

株式会社村田製作所
取締役上席常務執行役員
牧野 孝次



〔地球温暖化防止〕

徹底的な圧空使用のムダ削減。
圧空の使用効率を高め、
温暖化防止に貢献する。

写真左より
株式会社村田製作所 八日市事業所 管理部
植村 隆史

株式会社村田製作所
八日市事業所 第4セラミック製造部
吉川 直人

株式会社村田製作所
八日市事業所 生産技術部
福島 正則

地域と共生し、地球と共生するために、自ら考え、行動する。

ムラタの環境経営とは、技術や製品・サービスを通じて環境負荷の低減に貢献すること、そしてこれらのアウトプットを生み出す際の環境負荷を可能な限り低減することです。企業活動とは、「何かをインプットしてそれを価値あるものに変換してアウトプットする」ということであり、この変換効率を上げることが大切だと考えています。まず、アウトプットでは、ムラタの製品を使っただけで環境負荷低減に貢献できているか、ということ意識しています。たとえば省エネルギーの分野では、エネルギー消費の少ない部品を提供することはもちろんのこと、HEMS※1やBEMS※2などのシステムに部品やサービスを提供することにも貢献しています。製品のご提供にあたっては、お客様がより良い商品を生みだせるよう積極的に提案する、というのがムラタの考え方です。積極的な提案は環境負荷低減の貢献になるうえに、ビジネスチャンスにもつながります。一方で、ムラタが製品を生み出す過程では、環境に対して負荷をかけていま

す。生産時の環境負荷低減にあたっては、「守るべきところはしっかりと守る」というのがムラタの考え方です。ムラタでは材料から製品まで一貫生産しているため、多くのエネルギーや資材を使用しています。投入資源を最小化するため、省エネや省資源などの効率化を積極的に進めています。環境負荷化学物質については、社内基準を設けて代替技術を開発するなど使用量の最小化に取り組んでいます。排気や排水・廃棄物については、単に法を守れば良いというのではなく、地域との共生も考え、自主的な基準を設けて管理しています。こうした考えを実現するため、長期的な視点で判断して、環境負荷低減と経済性を両立させる投資をしてきました。このような活動を継続していくためには、経営トップが考えを発信し続けるとともに、従業員も会社の考え方を理解したうえで、自ら考え行動する必要があります。これからも全社一丸となって、環境負荷を可能な限り低減することと魅力ある製品の提供の両立を継続していきます。

※1 HEMS:
Home Energy Management System

※2 BEMS:
Building Energy Management System

家庭内やビル内のエネルギーを管理し、快適性と省エネルギーの両立を実現するための仕組み

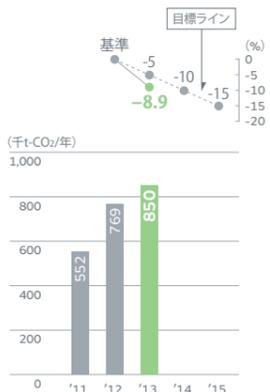
やるぞという意気込みで「チームエア」の取り組みをオールムラタへ。

八日市事業所は、原材料とセラミック電子部品を製造している主要事業所であり、CO₂排出量もムラタグループ内で上位に挙げられています。温暖化防止に向けた全社的な取り組みである製造工程での圧空※のモレ防止活動から視点を変え、八日市事業所では、徹底的な圧空使用のムダ削減活動にチャレンジしました。圧空をつくるユーティリティ設備の消費電力量は、八日市事業所におけるユーティリティ設備全体の消費電力量の約6割を占めており、圧空使用のムダ削減や使用効率を高めることは、ユーティリティ設備の省エネに大きな効果が期待できます。活動開始にあたり、製造、生産技術、環境部門が一体となり「チームエア」を結成し、製造工程でのモデルラインを決めて、モデルラインにおける圧空の使用用途、使用量を詳細に計測し、圧空の見える化を実施しました。その結果、生産設備の稼働、待機状況を問わ

ずに圧空を使用していることが課題として浮かび上がってきました。この活動は圧空を使用している生産設備での取り組みであり、生産設備の停止や品質面への影響などが懸念されましたが、圧空をつくる部門、つかう部門、そして技術支援する部門それぞれの立場から知恵と技術を出し合っ、圧空使用のムダ削減をやりきることができ、モデルラインでの取り組み効果は、CO₂排出量が年間100トン、コストにして数百万円の削減となりました。今後、モデルラインで得られた知見や成果を、「チームエア」が主体となって、事業所全体、そしてムラタグループ全体に展開できるよう推進していきます。

※圧空(圧縮空気):圧縮機などにより圧力を加えて体積を縮小させ高圧にした空気、圧空は電気とならび事業所において最も有用なエネルギーです。圧空はさまざまな工具や生産設備の動力源として使用され、事業所において重要な役割を果たしています。

CO₂総排出量と数量原単位改善率の推移



環境保全推進

「メガソーラー群馬」竣工。
再生可能エネルギーでの貢献をさらに拡大。

ムラタとしては3例目となるメガソーラーが竣工し、発電を開始しました。2013年8月に東京電波株式会社がムラタグループの一員になったことを機に、関東方面における再生可能エネルギーの普及と電力の安定供給に貢献するため、東京電波群馬工場の敷地内に設置したものです。発電規模はグループ最大の約1.6MWで、ムラタグループ全体での太陽光発電設備の導入規模は約3.6MWになります。「メガソーラー群馬」では、一般家庭の540世帯分に相当する年間約184万kWhの電力が発電できます。施工中の2月には関東地方での記録的な豪雪に見舞われましたが、施工者みなさまの協力により、当初の計画通り竣工、発電開始にいたしました。今後も再生可能エネルギーの普及や省エネルギー、環境負荷低減に取り組み、地域の電力安定供給に貢献していきます。

ムラタでは、事業活動で排出される温室効果ガスの総量削減に向けて温暖化防止方針を掲げています。目標達成のため、温暖化防止特別委員会を中心にムラタグループ全体で活動を行っています。

株式会社村田製作所
東京電波株式会社群馬工場
メガソーラー群馬
企画・導入グループ



地球温暖化
防止

環境社会
貢献活動



植物、虫、鳥とふれあう。
地域に開かれた「感動」のある工場づくり。

福井村田製作所では、地元にゆかりのある樹木や花を植えたり、地元で採れる石や砂利などの造園材料を用いて、地域に根ざした緑地づくりに取り組んでいます。また、70品種150株が咲き誇るバラ園、蝶や小鳥が訪れるビオトープ、熱帯植物を育てる温室や高山植物を育てる冷室など、多彩な緑化にも取り組んでいます。事業所見学会などのイベントでは、地域のみなさまに緑地を公開し、四季折々の木々や花を楽しんでいただいています。また、地元の小学生を招待し、緑地に生息する生き物や花・樹木にふれながら、自然の大切さを体感してもらい、環境学習にも役立てています。豊かな自然と、先端テクノロジーの工場が調和し、共存している、これもムラタの社会貢献の、ひとつの姿です。

「そこにムラタがあることがその地域の誇りでありたい」

写真左より
株式会社福井村田製作所 管理部 環境課
齋藤 茂樹
岩尾 義人

地域、社会に密着した事業経営を実現するため、小中学生向け環境学習の実施やムラタの森と題した里山保全活動、事業所緑化活動などを継続的に実施しています。

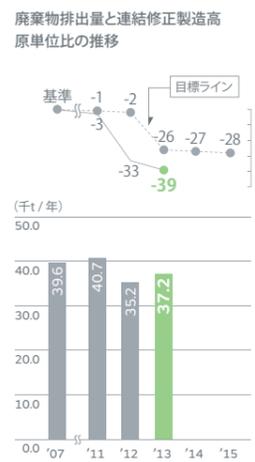
生産活動を揺るがず
廃棄物リスクをマネジメント。

ムラタでは生産活動にともない、さまざまな廃棄物が発生しています。発生した廃棄物は、ムラタで適正に保管し、委託先で処理しています。仮に何らかの理由で委託先での受入・処理が不能となり、廃棄物が蓄積する状態が継続して保管限度に達した場合、私たちは、やむなく生産活動を停止しなければなりません。ムラタは、これを「廃棄物リスク」としてとらえ、その低減に努めています。委託先に赴いて処理状況を確認だけでなく、他の処理ルートを複数確保するなど、生産活動への影響レベルに応じたリスクマネジメントを展開しています。

ムラタでは、2003年度にゼロエミッション[®]を国内グループで達成しました。現在は、海外でのゼロエミッションと、廃棄物発生量そのものの削減に取り組んでいます。より安定確実に廃棄物を処理するため、廃棄物管理体制の強化を目指します。

※ゼロエミッションとは、直接および中間処理も含めた埋立廃棄物をゼロにし、リサイクル率100%にすることで、ムラタでは定義しています。(浄化槽余剰汚泥など自らの取り組みだけでは対応できない廃棄物は除外しています。)

写真左より
株式会社鯖江村田製作所 事務課
藪内 美智子
株式会社金津村田製作所 事務課
宮前 裕子
株式会社村田製作所 環境部 環境推進課
串岡 航



廃棄物管理



環境
マネジメント



国境を越えて協力体制を強化し、
環境活動のレベルアップを推進。

ムラタグループASEAN地域の各国の環境担当者が、タイのMurata Electronics (Thailand), Ltd.に集まり、環境活動についてのミーティングを開催しました。実際に顔を合わせてじっくり話し合うことで、課題の発見・解決につながる事案も多くあり、あらためて理解を深めることができました。これが各事業所担当者の絆を深めるきっかけとなり、その後もWebミーティングなどで情報交換をしています。ムラタグループでは海外生産比率が高まり、これまで以上に海外事業所の影響度が大きくなっています。本社と事業所だけでなく、事業所間のコミュニケーションもさらに活発にし、協力体制を強化して、環境活動のレベルアップと効率化を進めていきます。

ムラタでは、国内全事業所および海外全生産拠点を対象にグローバルで一貫した環境経営の枠組みを構築しています。環境経営にかかわる情報を共有し、効率的で実効性の高い環境活動の推進とガバナンスの強化を目指します。

写真左より
Murata Electronics (Thailand), Ltd.
Administration Dept. Environmental Control Sec.
Supathat Thippanya

Murata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
Administration Dept.
Tham Yoke Wan

Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.
Quality & EHS System Dept.
Anand Ariyaratnam

[グローバルな人材活用]

多様な人が、多様に働く。
チャレンジ精神を育む
職場環境。

株式会社村田製作所
日本営業統括部
陸新



[労働安全衛生]

世界のどこでも
同じ思想で安全で快適な
職場を実現する。

写真左より
深圳村田科技有限公司
管理部 環境管理科
黄超
赵建丽



村田製作所単体における
日本以外を国籍とする
社員の数(出向者を含む)
約80名

さまざまなバックグラウンドの人材を採用、活用。
グローバルに活躍しようとする人を応援しています。

私は中国・蘇州市の出身です。本国の大学を卒業したあと、日本の大学院に進学し、地震リスク解析などにかかわる研究をしていました。蘇州には日系企業が多く、周囲にも日本にかかわる人が多くいたため、技術力などで先行する日本に対する関心は子どものころからありました。そのため、大学院修士課程を修了後、日本の企業に就職したのは、自然な流れでした。地震リスク解析の研究とエレクトロニクスでは専門分野が違いますが、ムラタはグローバル展開に力を入れており、将来、自分が活躍できる環境が想像できたこと、ムラタの社風がオープンで温かい印象を感じたこと、さらに、就職活動をしているなかでは唯一、中国語人材向けのセミナーを開催していたことがムラタに就職する決め手になりました。

現在の仕事は、国内営業です。特に力を入れているのは、得意先との技術交流などを通して将来のニーズを探り、それを商品開発、技術開発につなげていくことです。企業と企業、個人と個人が信頼関係で結ばれていなければ、こういうビジネスは成立しません。日本企業が持っている貴重な“見えない資産”だと思います。ムラタでは、海外からの留学生の採用に加え、国内外の拠点で人材交流があり、グローバル志向の人材がさらに大きく成長できる環境があります。私もこの環境を生かして、中華圏にこだわらず世界のどこでも役に立つグローバル人材として成長していきたいと思います。国内営業の経験を積み、自分の強みを明確にしたうえで、将来はいろいろな国でビジネスを開拓していきたいです。

ムラタグループの
事業所における
OHSAS18001の取得状況

国内：26 事業所
海外：5 事業所

何度も教育、そしてコミュニケーション。
安全意識を高めて、OHSAS18001認証取得。

OHSAS(Occupational Health and Safety Assessment Series)は、労働安全衛生に関する国際規格です。この認証を得ていることを取引条件とするメーカーもあり、深圳村田科技有限公司でも取得に向けた活動をスタートしました。2010年のことです。私たちは、中華圏ですでにこの分野で先行している無錫村田電子有限公司に見学に行き、関連文書を学習し、さらに外部のコンサルティングを受けるなどの取り組みから始めました。深圳村田科技有限公司は従業員の平均年齢が若く、また、地域柄人材の流動性も高いので、安全衛生意識が定着しにくい悩みがありました。私たちは、何度も安全衛生教育を実施するとともに、現場の作業者と積極的にコミュニケーションを取り、その意見を収集することに努めてきました。初めのうちは、職場の安全衛生と聞いても、「何のために?」「怪我しないように気をつけて

作業すればいいんでしょ」というような反応がほとんどでした。しかし、数カ月が経過したころには、作業者からの改善意見や提案などが聞こえてくるようになりました。私たちには、提案をもらえたことがとても嬉しく感じられました。それらは作業者の意識の高まりの証、自分たちの職場環境をよくしていこうという意欲の表れだと感じたからです。高所作業用の安全梯子確保、化学品作業用のマスク・ゴーグルの配布と着用確認など、装備が徐々に整い、ドキュメントも日本語版、中国語版の両方が用意され、2014年1月、深圳村田科技有限公司はOHSAS18001認証を取得しました。これによって、取引先にも自信を持って対応できるのはもちろんですが、何よりも、従業員にとっての安全性と快適性を高めていくPDCAのサイクルが回り始めたことが、私たちの大きな喜びです。

社会・地域への責任と行動

[地域貢献活動]

ここにムラタがあることが
地域の誇りであるように。

ムラタグループの
国内事業所における
小中学生向けの
理科や環境に関する
出前授業の開催回数

163回



環境学習、森づくり、エコキャップ収集、市産業フェスティバルへの参加…。
地域のために、地域といっしょに、事業所を挙げて。

登米村田製作所はムラタグループのほかの拠点と比べると小さな事業所ですが、CSR委員会を組織して、従業員全員参加の活動を目指して積極的な地域貢献活動を展開しています。たとえば、登米市内の小学校を訪問する「環境学習」は、年々依頼が増え、2014年度で20回を予定します。子どもたちや先生の意見を取り入れて内容をさらに良いものにしていくために、私たちも日々わくわくしながら取り組んでいます。「エコキャップ収集活動」は地元の新聞で紹介され、地域の方々や遠く仙台からも宅配便で大量のエコキャップが送られてきました。登米市内の森林で行っている「ムラタの森」活動では、将来地域の人々が安らげる場所を目指して整備を行い、山桜などの植林を進めています。また、森林の保全を通じて、津波で損なわれた三陸の豊かな海の再生に寄与することも目的としています。登米市主催の産業

フェスティバルでは、ムラタの出展スペースを広く取ってもらっており、地域の方々の期待に応えるために「ムラタセイサク君®」のデモと併せてゲームや工作のコーナーを設けたりなど、さまざまな工夫を行っています。このように、登米村田製作所の地域貢献活動は、地元の人々との強い絆のもとで行っています。2011年3月11日、東北地方を襲った地震は、地域全体にたいへんな被害をもたらした。登米村田製作所も被災しました。地域のためにできることをしたい…その想いは、震災以降、さらに強くなっています。「ここにムラタがあることが地域の誇りでありたい」登米村田製作所は、そのスローガンのもとに地域貢献活動を展開しています。私たちは、地域のために、地域とともに、活動を展開していきます。「僕らの学校に来てくれてありがとう」そんな小学生からの手紙が、私たちの力になっています。

写真左より
株式会社登米村田製作所
商品設計課
坂東 政博
IE係
佐藤 留美子
業務課
インタン マスリンナ
事務課
菅野 忠美
製造2課
齋藤 久芳
品質管理課
千葉 未来
事務課
大星 かなみ
技術課
三塚 税
製造2課
木川田 圭一

Murata Electronics
(Malaysia) Sdn. Bhd.



写真：
大勢の子どもたちに
見守られながら走る
セイサク君

マレーシア進出から20年。ムラタセイサク君®を
活用した地域とのコミュニケーション。

Murata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. では、2014年3月に設立20周年を記念した催しを行いました。その行事の一環として、事業所のあるペラ州近隣の学校でセイサク君の出前授業を実施しました。今回は主に技術を学ぶ学生が多い専門学校や大学を訪問し、セイサク君のデモを披露しました。また、技術に対する理解をより深めてもらうため「倒れない原理」や「使っている部品」も紹介しました。セイサク君の細かな動作はたくさんの学生たちの熱い視線を浴びました。今後も、セイサク君を通してさまざまな国や地域で理科や科学の面白さを伝えていきたいと考えています。



伝統ある小諸村田製作所の
自衛消防隊活動。

小諸村田製作所の自衛消防隊は、前身の日立製作所小諸分工場時代の1967年6月に発足してから47年という長い伝統があり、これまで工場の防災活動を支えてきました。28名からなる部隊は、消防操法の基本を順守し、規律正しく迅速・確実な行動が取れるよう、定期訓練や社内放水競技会、さらには消防署との技術向上訓練などを通して技術練磨に励んでいます。火災、地震などの不測の事態にも、地域の活動に協力するとともに職場の先頭に立って消火・救出活動が行えるよう、万全を期しています。また、小諸市で開催される防災訓練や出初式にも参画しており、今後も地域消防・警察との連携を図り、地域の防災意識の高揚にも貢献できるよう努めてまいります。



写真：

- 1 小諸市主催の消防出初式
- 2 工場出初式の様子
- 3 火災を想定した救護訓練の様子

小諸村田製作所



[CSR活動における目標と実績]

ムラタでは、重点取り組みテーマを設定し、各種施策を推進して継続的な改善に取り組んでいます。

○:達成
△:ほぼ達成
×:未達成

■第5次環境行動計画(2011年度～2015年度)に対する2013年度の実績と2014年度の目標

項目	2013年度目標	2013年度実績	評価	2014年度目標
【1】製品の環境配慮	環境配慮製品の拡充と環境配慮技術(工法)開発の継続	環境に配慮した設計・開発を目標設定することで、製品の小型化、省エネを推進し、環境配慮製品の拡充を行った。	○	環境配慮製品の拡充と環境配慮技術(工法)開発の継続
	製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替の遂行継続	環境負荷化学物質の削減・代替を計画通り進めた。	○	製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替の遂行継続
	環境配慮製品の拡充による低環境負荷社会への貢献	環境配慮製品の提案・認定取得・拡充の活動を展開してきた。多くのユーザーから認定が得られ、順次既存品からの置換が進行中である。	○	環境配慮製品の拡充による低環境負荷社会への貢献
【2】温暖化対策	(1)生産拠点における取り組み	生産拠点における品種別CO ₂ 排出量と数量原単位の把握 製造時におけるCO ₂ 排出量削減施策の実施計画を立案し、計画に基づいて削減施策の実施に取り組んだ。 2015年度目標:数量原単位2012年度比15%削減 2013年度実績:数量原単位2012年度比8.9%削減	○	生産拠点における品種別CO ₂ 排出量と数量原単位の把握 製造時におけるCO ₂ 排出量の削減施策の実施およびモニタリングの継続
	(2)物流における取り組み	(国内) 物流におけるCO ₂ 排出量の実質生産高原単位2007年度比39%削減 (海外) 物流におけるCO ₂ 排出量の把握・目標設定	○	(国内) 物流におけるCO ₂ 排出量の実質生産高原単位2007年度比49%削減 (海外) 物流におけるCO ₂ 排出量の削減施策の実施
	(3)グリーン購入に関する取り組み	(国内) グリーン購入率95%達成	△	(国内) グリーン購入率95%達成
【3】化学物質	(国内) 環境負荷化学物質使用量原単位前年度比1%削減	環境負荷化学物質使用量原単位前年度比18.6%削減。	○	環境負荷化学物質使用量原単位前年度比1%削減
	(海外) 環境負荷化学物質使用量削減の推進	無錫、深圳、マレーシア、タイで使用量削減に取り組んだ。	○	
【4】省資源・資源循環	(1)廃棄物に関する取り組み	廃棄物排出量原単位前年度比1%削減 (海外) ゼロエミッション達成に向けた取り組み継続	○	廃棄物排出量原単位前年度比1%削減 (海外) ゼロエミッション達成に向けた取り組み継続
	(2)容器包装における取り組み	内作原料のエコ容器への切替え率60%以上達成	○	環境負荷低減につながる包装資材の改善を1件以上提案する
	(3)生産工程における取り組み	原材料ロス率の低減	○	原材料ロス率の低減
【5】生物多様性	生物多様性に関する従業員教育の継続実施	新入社員および中途入社者を対象とした教育の資料に、生物多様性に関する項目を盛り込み教育を実施した。	○	生物多様性に関する従業員教育の継続実施
	生物多様性をテーマとした小中学生向け環境学習の実施	本社ムラタの森活動において、森を題材とした木々と人のかかわりについての教育を実施した。	○	生物多様性をテーマとした小中学生向け環境学習の実施
【6】環境社会貢献活動	環境社会貢献活動の継続実施	地域、社会に密着した事業経営を実現するため、小中学生向け環境学習の実施やムラタの森と題した里山保全活動、事業所緑化活動などを継続的に実施した。	○	環境社会貢献活動の継続実施

○:達成
△:ほぼ達成
×:未達成

■2013年度の社会性目標に対する実績と2014年度の目標

項目	2013年度目標	2013年度実績	評価	2014年度目標
【1】内部統制システム	内部統制整備の対象範囲の拡大を図る(新規・M&A会社)。	海外の2拠点を新たに内部統制整備の対象拠点に加え、継続して対象範囲の拡大に取り組んだ。	○	グローバル化に対応した内部統制整備を進める(新設拠点・M&A会社への展開含む)。
	データを活用した効率的・網羅的の監査を実施する。	監査手続きの有効性および効率性を改善するために、コンピュータを利用した監査ツール(コンピュータ利用監査技法=CAAT)を導入し、すべての取引データを分析することにより、不正、誤謬、業務プロセスの非効率性などを検出できる環境を整えた。	△	データを活用した効率的・網羅的の監査を実施する。
	業務の有効性・効率性のさらなる向上およびコンサルティング活動を推進する。	業務の適正性を対象とした内部統制に加えて、業務の標準化・見える化や業務改善・改革を支援した。また、新たなリスクに応じた業務手続きの見直しを提案した。	○	業務の有効性・効率性のさらなる向上およびコンサルティング活動を推進する。
【2】コンプライアンスの推進	グループ横断的な視点から再構築・合理化したコンプライアンス体制の充実を図る。 ①コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信。コンプライアンス知識に関するメールマガジン12回/年 ②コンプライアンス推進強化月間(10月)の定着。 ・グループ討議の実施 ・確認テストの実施 ・啓蒙ポスターの掲示 ・アンケートの実施	①コンプライアンス知識に関するメールマガジンおよびコンプライアンス推進活動に関するメールマガジンを定期的に発行した。 ②当社および国内関係会社において、10月を強化月間とし、グループ討議、確認テスト、啓蒙ポスターの掲示およびアンケートを集中的に実施した。	○	①コンプライアンス意識の浸透。 ・コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信の継続 12回/年 ・コンプライアンス確認テスト・アンケートの実施 ②コンプライアンス教育の充実。 ・ケースメソッドなどを用いたグループ討議の実施 ・競争法・贈収賄規制に重点を置いた集合教育(国内外の営業・事業部対象)の実施 ③グローバル・コンプライアンスの基盤強化。 ・企業倫理規範・行動指針の一部改訂(「独占禁止法の遵守」「接待・贈答」) ・競争法遵守、贈収賄防止のためのガイドライン配信
【3】リスクマネジメントの強化	当社の事業の継続を阻害する主要なリスクに対し、未然防止策およびリスクが具現化した場合の損失の極小化対策についての全社的な取り組みを強化する。	主要なリスク項目について定期的に評価を行うことにより、当社を取り巻くリスクの状況を確認し、対策を実施。	○	当社の事業継続を阻害する主要なリスクに関して継続的なリスク低減策を実施するとともに、グローバルレベルでの経営環境の変化にともなう新たなリスクの出現を注視し、迅速な対応を行う。
【4】社会・地域への責任と行動	地域社会に定着し、愛され親しまれる社会地域貢献活動を継続して行う。	・小中学校の出席授業や体験教室の開催対象を拡大。 ・地域清掃活動・森林保全活動・緑化活動を継続して実施。	○	未来を担う子どもたちへの育成支援として行う理科や環境に関する体験学習や、地域の振興、事業所の緑化や森林保全など、地域社会に定着し喜ばれる社会地域貢献活動を継続して行う。
【5】仕入先様への責任と行動	前年度から引き続き「紛争鉱物問題」への対応として、仕入先様とともに紛争鉱物情報(製錬業者情報)の調査を行う。 併せて、社内における紛争鉱物管理の仕組みを構築する。	前年度から継続して、当社部資材で使用している製錬業者情報の追加調査と情報のアップデートを行った。また、CSR統括委員会にて紛争鉱物に関する取り組み状況を経営トップと共有・審議する体制を構築した。	○	「紛争鉱物問題」への対応として、業界団体との連携を密にし、仕入先様とともに紛争鉱物情報(製錬業者情報)の調査を行い、よりリスクの少ない部資材を使用する努力を継続する。
	主要事業所において下請法講習会を実施し、資材要求部門の社員一人ひとりにおける下請取引の認識を深める。また主要事業所において下請法教育を行うことができる人材を育成する。	主要事業所において資材要求部門への下請法講習会を実施し、下請法の認識が深まるよう努力した。また下請法の視聴覚教材(DVD)を導入し、DVDの視聴によって、より広範囲に深い下請法の講習会の実施が可能となった。	○	主要事業所において下請法講習会を実施し、資材要求部門の社員一人ひとりにおける下請取引の認識を深める。また講習会資料、ビデオなどの下請法教育ツールを充実させ、広範囲な下請法教育を行うことができる基盤を構築する。
【6】従業員への責任と行動	仕入先様から通報があった場合の対応ガイドラインを海外拠点で確定し、コンプライアンス体制を海外拠点でも充実、強化させる。	海外拠点においても「仕入先から不正行為の通報があった場合の対応ガイドラインの通知」の徹底を行い、海外拠点におけるコンプライアンス体制の充実を図った。	○	災害発生時に参照する資材生産場所情報を整備し、タイムリーに情報更新することで、精度の高い情報に基づき、有事の対応を行うことを可能とする。
	・適性に応じたキャリアを選択できる制度の実行。 キャリア形成プログラムによる異動の実践。 ・障害者雇用の推進。 雇用率2.0%以上 ・シニア層の活躍支援。 キャリアマネジメント研修会の実施 2013年度:10回	・入社4年目社員の自己申告を実施し、2009年入社キャリア形成プログラム実施率は56%となった。 ・障害者雇用率は2.17%(2014/3/31現在) ・キャリアマネジメント研修会を10回開催した。	○	・適性に応じたキャリアを選択できる制度の実行。 キャリア形成プログラムによる異動の実践。 ・シニア層の活躍支援。 キャリアマネジメント研修会の実施。 2014年度:9回
	・ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続。 セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して2013年度4回実施。一般職者向けに1回実施。 ・人権教育の継続。 階層教育として年1回実施	・本社・野洲事業所において、役職者(未受講者)向けの研修会を7回、一般職者向け研修会を2回実施した。 ・人権教育を階層教育として1回実施した。	○	・ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続。 セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して、2014年度4回実施。 ・人権教育の継続。 階層教育として年1回実施
・仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。 従業員子ども参観日の開催 1回	下記の通り、従業員の子どもの対象とした子ども参観を開催した。 実施日時:2013年8月8日13:00~17:00 参加者:小学5・6年生24名 実施内容:仕事体験・職場見学・名刺交換など	○	・仕事と家庭の両立支援制度(ワークライフバランス)の充実・定着化。 従業員子ども参観日の開催 1回	
【5】生物多様性	・経営理念の浸透・共有策の推進。 役員主催研修の実施 30回 理念共有対話会の実施 4回 ・外国人出向者受け入れ推進。 2013年度:30人 ・外国人採用の強化。 海外大学卒業 新卒入社者:2名 ・グローバル化教育の実施(英語力強化)。 英語強化研修 上下期各1セット実施	・役員主催研修の実施 55回 ・理念共有対話会の実施 10回 ・外国人出向者について、2013年度実績は29人受け入れた。 ・海外大学卒業 新卒入社者:4名 ・国内英語力強化研修を実施した(トータル受講人数505人)。	○	・経営理念の浸透・共有策の推進。 役員主催研修の実施 35回 ・外国人採用の継続。 新卒入社者:3名 ・外国人出向者受け入れ推進。 2014年度:20人 ・グローバル化教育の実施(英語力、中国語力強化)。 英語強化研修、中国語強化研修 上下期各1セット実施
	安全体感教育を安全衛生教育の一つの柱と位置づけ、本格的な導入・展開を図る。	監督者・オペレーター向けの体感訓練の教育カリキュラムを作成。2014年度から実施する。 また、野洲事業所において、新規入職者を中心に、作業に潜む危険、設備使用時の危険を体感する教育を継続して実施した。	△	・労働災害再発防止のための取り組みを強化する。 安全衛生意識向上の取り組みを強化する。 安全衛生教育の継続・推進 体感・KY・リスクアセスメント教育の実施 管理職を対象とした意識向上に向けた取り組みの実施

第三者からのご意見

ムラタのCSRに寄せて

ムラタのCSR Reportでは、従業員の顔が見えるということが、大きな特徴です。今年は特にグローバルを意識して顔を見せているように感じます。昨年「事業とCSR」に踏み込んだ記述をされましたが、今年はさらに一歩進んで社会課題の解決を指向されていることを明確にされています。CSR Reportにあるトップコミットメントにそのことが明記され、また記事でも取り上げられています。企業の社会的使命を明確に意識しながら、新技術や製品を開発されていくことはCSR経営を推進する上でとても重要です。今後も村田製作所グループの事業活動が、社会へ良い影響を与えることを期待したいと思います。

今年度のCSR Reportでは、2014年に創業70周年を迎え、更に発展していこうとするムラタの方向性が感じ取れます。このあたりについて、中長期的な経営計画や具体的な将来像、そこに至る過程を示したロードマップ的なものを明示することで、社会に対するコミットメントとして示されれば、より一層理解が深まるのではないのでしょうか。詳細な情報はWebにおいて開示されていますが、冊子版においても全体像の情報を開示されれば、わかりやすく視覚化された情報提供としてレベルがアップすると思います。また今年も、本文の記事の中に、CO2排出量などの関連する重要な数値が記載されています。これにより記事に書かれた項目の具体的な活動状況が見えるようになりました。この点についても、全体計画の中の位置づけを明確に指摘されれば、内容がもっとよくわかるようになると思います。

本報告書の前半は会社事業の紹介であり、後半がCSR Reportになっています。会社の内容を理解してからCSR情報を読むという構成になっており、初めてムラタの報告書に触れる方には分かりやすいかもしれませんが、毎年の読者に対してはもう少し踏み込んで説明されることも必要と思います。そのためには、前半に示された企業の全体像と、後半に記載されたそれぞれのCSR活動の記事との間の関係を明確にすることと、経年変化について記述することが大切です。現在、世界的に注目されている統合報告書は、事業活動とCSR活動を簡潔に連携して報告することを提唱しており、ムラタの報告書もこのような方向へ展開されるとより有効な情報開示手段になると思います。



神戸大学大学院 経営学研究科 教授

國部 克彦氏

Profile

国内外拠点一覧

[国内拠点一覧]

村田製作所 / 本社・支社・事業所・営業所	
本 社	株式会社村田製作所
支 社	東京支社
事業所	横浜事業所 / 野洲事業所 / 八日市事業所 / 長岡事業所
営業所	仙台 / 水戸 / さいたま / 東京 / 立川 / 浜松 / 名古屋 / 安曇野 / 京都 / 神戸 / 岡山 / 福岡

国内関係会社

株式会社福井村田製作所	株式会社大垣村田製作所
株式会社出雲村田製作所	株式会社アスワ村田製作所
株式会社富山村田製作所	株式会社穴水村田製作所
株式会社小松村田製作所	村田土地建物株式会社
株式会社金沢村田製作所	株式会社ムラタ栄興
株式会社岡山村田製作所	株式会社ムラタアクティブパートナー
株式会社金津村田製作所	株式会社ムラタエレクトロニクス
株式会社鯖江村田製作所	ムラタソフトウェア株式会社
株式会社伊ワミ村田製作所	ムラタ分析パートナー株式会社
株式会社ハウイ村田製作所	東京電波株式会社
株式会社水見村田製作所	盛岡東京電波株式会社
株式会社アズミ村田製作所	北見東京電波株式会社
株式会社小諸村田製作所	東光株式会社
株式会社ワクラ村田製作所	他
株式会社登米村田製作所	東光株式会社は、東光株式会社を含め国内に3社、海外に21社のグループ会社を展開しています。

[海外拠点一覧]

North & South America 南北アメリカ	
U.S.A.	Murata Electronics North America, Inc. Murata Power Solutions, Inc.
Canada	Murata Power Solutions (Toronto) ULC
Mexico	Murata Electronics Trading Mexico, S.A. de C.V.
Brazil	Murata World Comercial Ltda. 他

Europe ヨーロッパ	
Netherlands	Murata Electronics Europe B.V.
Germany	Murata Elektronik GmbH
U.K.	Murata Electronics (UK) Limited Murata Power Solutions (Milton Keynes) Limited Murata Power Solutions (Celab) Limited
France	Murata Electronique SAS
Italy	Murata Elettronica S.p.A.
Finland	Murata Electronics Oy 他

上記の国以外にスペイン、ハンガリー、スイスにセールスオフィスを設置しています。

Asia アジア

China	村田 (中国) 投資有限公司 (Murata (China) Investment Co., Ltd.) 無錫村田電子有限公司 (Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.) 深圳村田科技有限公司 (Shenzhen Murata Technology Co., Ltd.) 村田電子貿易 (天津) 有限公司 (Murata Electronics Trading (Tianjin) Co., Ltd.) 村田電子貿易 (上海) 有限公司 (Murata Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.) 村田電子貿易 (深圳) 有限公司 (Murata Electronics Trading (Shenzhen) Co., Ltd.) 賽芯電子技術 (上海) 有限公司 (SyChip Electronic Technology (Shanghai) Ltd.) 村田電源技術 (上海) 有限公司 (Murata Power Solutions (Shanghai) Co., Ltd.) 广州村田電源技術有限公司 (Guangzhou Murata Power Solutions Limited) 佛山村田五鉍精密材料有限公司 (Foshan Murata Minmetals Materials Co., Ltd.)
Hong Kong	村田有限公司 (Murata Company Limited)
Taiwan	台湾村田股份有限公司 (Taiwan Murata Electronics Co., Ltd.)
Korea	韓国村田電子株式会社 (Korea Murata Electronics Company, Limited)
Singapore	Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.
Thailand	Murata Electronics (Thailand) , Ltd. Thai Murata Electronics Trading, Ltd.
Malaysia	Murata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
Philippines	Murata Electronics Philippines Inc. Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.
India	Murata Electronics (India) Private Limited
Vietnam	Murata Electronics (Vietnam) Co., Ltd. 他

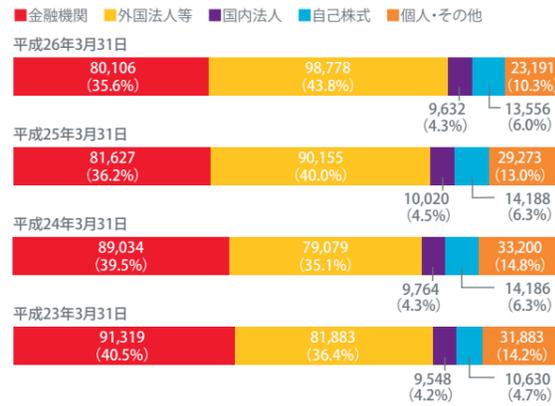
役員一覧 平成26年7月1日現在

代表取締役	取締役社長	村田 恒夫
	取締役副社長	藤田 能孝
取締役	村田 恒夫	
	藤田 能孝	
	牧野 孝次	
	中島 規巨	
	竹村 善人	
	棚橋 康郎(社外取締役)	
	吉原 寛章(社外取締役)	
監査役	常勤監査役	吉野 幸夫
		田中 純一
	監査役	豊田 正和(社外監査役)
		中西 倭夫(社外監査役)
		西川 和人(社外監査役)
執行役員	上席常務執行役員	牧野 孝次
		濱地 幸生
	常務執行役員	井上 亨
		中島 規巨
	上席執行役員	小島 祐一
		藺田 聡
		岩坪 浩
	執行役員	岡田 剛和
		前川 利弘
		竹村 善人
		鴻池 健弘
		丸山 英毅
		多田 裕
		石谷 昌弘
		水野 健一
		石野 聡
フェロー	酒井 範夫	
執行役員	宮本 隆二	
	鯨谷 佳和	

株式の状況 平成26年3月31日現在

株式事項	当期末発行済株式総数	225,263千株
	当期末株主数	57,421名

所有者別分布状況(千株)



株式上場	[国内]	東京証券取引所 市場第一部
	[海外]	シンガポール証券取引所

大株主の状況 平成26年3月31日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ジェーピー モルガン チェース バンク 380072	19,913	9.4
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー	14,517	6.9
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	8,594	4.1
日本生命保険相互会社	8,281	3.9
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	7,106	3.4
株式会社京都銀行	5,260	2.5
明治安田生命保険相互会社	5,240	2.5
株式会社滋賀銀行	3,551	1.7
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055	3,179	1.5
株式会社みずほ銀行	3,000	1.4

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(13,555千株)を除いて計算しております。

Innovator in Electronics、EMIFIL、HCR、セラロック、イオニシモ、ムラタセイサク君は、株式会社村田製作所の登録商標または商標です。Bluetoothは、米国Bluetooth SIG, Inc.の登録商標または商標です。